

「勤務環境ならびに心の健康に関するアンケート調査 2011」  
医療従事者のメンタルヘルスケア～より喜ばれる医療を目指して～ 看護職に関する調査結果報告

○横山浩誉<sup>1</sup>、北村有香<sup>1</sup>、臼田寛<sup>2,3</sup>、河野公一<sup>2,3</sup>、後藤研三<sup>3,4</sup>

(大阪医科大学 看護学部 看護学科 老年看護学<sup>1</sup> 大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学<sup>2</sup>  
大阪府医師会勤務医部会第2ブロック<sup>3</sup>、高槻赤十字病院<sup>4</sup>)

【緒言】

医療の高度化や看護業務の複雑化、患者ニーズの多様化等、さらには 2006 年 4 月診療報酬改定において「7 対 1 看護基準」が創設されたこともあり、看護職の業務量や質は年々増大している。その結果、現場での看護職の不足や疲労・ストレスが高まっており、看護職に対するメンタルヘルス対策は急務であるといえる。

【目的】

本研究は、大阪府下の 9 医療機関職員のうち、特に看護職（看護師・助産師・保健師・准看護師・看護業務補助者：以下看護職とする）のメンタルヘルス対策を行うための基礎資料を得ることを目的とした。

【方法】

1. 対象と調査方法

1) 対象

大阪府下の 9 医療機関の医療従事者（医師以外）3169 名のうち、有効回答者 2925 名（回収率：92.3%）。そのうちの看護職 1923 名（有効回答者数全体の 65.7%）を対象とした。

2) 調査方法

2011 年 7 月に調査目的と倫理的配慮について明示された無記名の調査票を用い行った。調査票は、協力医療機関の管理者を通して配布し、医療機関毎個別に郵送にて回収した。

3) 調査項目

調査項目は、医療従事者（医師以外）を対象とした先行文献および 2009 年に実施した医師を対象とした調査を参考に属性、業務遂行に関する項目、産休・育休制度に関する項目等 29 項目とした。

2. 統計解析（解析方法）

調査票における回答について主に医療機関別比較を行うため、平均値および回答項目と医療機関の間でクロス集計と有意差検定（ $\chi^2$  乗検定）を行い、 $p < 0.05$  を有意とした。なお、統計解析には、excel および IBM SPSS statistics 20 を使用した。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、各医療機関からの匿名化されたデータを収集し、解析を行うことについて、大阪府医師会勤務医部会第2ブロック委員会倫理委員会の承認を得て実施した。

#### 【結果】

##### 1. 対象の基本属性

職種は、看護師 1509 名 (78.4%)、助産師 103 名 (5.3%)、保健師 7 名 (0.4%)、准看護師 139 名 (7.2%)、看護業務補助者 167 名 (8.7%) であった。性別は、男性 125 名 (6.5%)、女性 1794 名 (93.2%) であった。平均年齢は、34.8 (±10.4) 歳であり、10 代 8 名 (0.4%)、20 代 723 名 (37.6%)、30 代 607 名 (31.6%)、40 代 (20.3%)、50 代 164 名 (8.4%)、60 代 32 名 (1.6%) であった。平均卒後年数は、11.6 (±9.9) 歳であった。また正規職員が 1735 名 (90.2%)、非正規職員が 188 名 (9.8%) であった。

##### 2. 業務遂行・業務イメージに関する回答結果

8 医療機関において 50%以上が人員不足感を感じていた。5 医療機関において年次有給休暇取得率は 50%以下であり、各医療機関において大きな差があった ( $p < 0.01$ )。全 9 医療機関において、60%以上が休憩をおおむね取得できていた。全医療機関において、業務過大感を感じている看護職は 50%以下であった。将来の不安に関しては、全医療機関において「定年・老後」が最多であり、次いで「医療制度改革」「医療費抑制策」の順であった。現在最も困っていることは「低賃金」が最多であり、次いで「医療過誤」「仕事の質」の順であった。全医療機関において、全体の 50%以上が仕事を楽しんでいると答えており、現在の仕事を再選択しないと答えた看護職は 50%以下であった。

##### 3. 産休・育休制度に関する回答結果

産休・育休制度についての回答は、有効回答者のうち、分娩及び育児経験がある看護職 621 名 (32.4%) が回答した。現在の託児所利用について「利用していない」と回答した者が多く、各医療機関において大きな差がみられた ( $p < 0.01$ )。育児後の職場復帰については、「可能」と回答した者が少なく、「少し難しい」「かなり難しい」と回答した者が 50%を超えていた。また、各医療機関において大きな差がみられた ( $p < 0.01$ )。

#### 【考察】

本研究は、今後のメンタルヘルス対策を行うための基礎資料を得ることを目的とした実態調査であったが、対象の看護職は、仕事の内容にはそれほど不満はないが、人員不足感や、休暇、賃金等の環境面での不満が疲弊を招いていると示唆された。また、産休・育休後の職場復帰を可能にし、継続して看護職を確保するためには、託児所や保育施設を含めた育児制度の充実が必要であると考えられた。